

【NEWS RELEASE】

2022年3月31日

各 位

株式会社三井住友銀行

ハリマ化成グループ株式会社に対する
「ESG/SDGs評価」に基づくシンジケート・ローンを実施

株式会社三井住友銀行（頭取 CEO：高島 誠）は、ハリマ化成グループ株式会社（代表取締役社長：長谷川 吉弘）に対し、「ESG/SDGs評価シンジケーション」における「ESG/SDGs評価」に基づくシンジケート・ローンを組成いたしました。

本件は、株式会社日本総合研究所（代表取締役社長：谷崎 勝教）と弊行が作成した基準に基づき、ハリマ化成グループ株式会社のESG（※1）側面の取組や情報開示、SDGs（持続可能な開発目標）（※2）達成への貢献を評価し、その趣旨に賛同いただいた金融機関によって組成されるシンジケート・ローンとなります。

今回対象となりましたハリマ化成グループ株式会社の取組は、「気候変動への対応」、「従業員への配慮」、「サステナビリティマネジメント」において非常に高い水準であると判断されました。企業経営において大変優れたESG側面の取組と情報開示を実施されており、また、事業を通じたSDGs達成への高い貢献意欲をお持ちであることから、最上位評価である「総合評価ランクAAA」の取得となりました。

特に、ESGおよびSDGs達成に向けた取組では、以下の内容が評価されました。

- E：自社の事業活動に伴う温室効果ガスの排出削減に向けて、2030年、2050年を目標年とする数値目標を開示。生産工程におけるCO₂排出量の削減に向けて、重油・灯油からLPガスへの燃料転換や、エネルギーのモニタリング、モーダルシフトを実施する等、省エネの取組を推進している点。
- S：従業員の働き方改革を全社的に進めるため、ノー残業デーや在宅勤務制度等を導入。また、多様な人材の活躍に向けて、女性社員のキャリア形成研修や、障がい者雇用を進めるハリマファームのオープン等、具体的な取組内容を開示している点。
- G：ESGに関する取組をより一層推進するため、2021年11月、サステナビリティ推進室を設置し、ESGの視点で新たな社会価値を創造するためのマネジメント体制を強化。株主向けの媒体においても、循環型事業の推進、環境に配慮した製品開発、CO₂排出削減等にESGに積極的に取り組むことを明確に言及している点。
- SDGs：本業を通じたSDGs貢献への具体的な取組として、植物由来の原料を使用した製品を開発し（インプット）、その普及（アウトプット）を通じて、製品ライフサイクルにおける環境への負荷低減等を実現（アウトカム）し、SDGsが示す「目標12（つくる責任つかう責任）」等に貢献している点。

三井住友銀行では、「ESG/SDGs評価シンジケーション」のESG評価を踏まえた情報提供を行い、持続可能な社会および市場の形成に一層貢献を行ってまいります。

<ご参考>

※1 ESGとは

ESGとは環境 (Environmental)、社会 (Social)、企業統治 (Corporate Governance) の頭文字を取ったものです。いずれの側面も企業が事業活動を展開するにあたって配慮や責任を求められる重要課題として考えられています。

※2 SDGsとは

Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標) の略称。国連総会で採択された、新興国だけでなく先進国等あらゆる国と地域が、貧困や平等、教育、環境等、「誰も取り残されない世界」の実現を2030年までに目指す17の目標と169のターゲットのことです。

以 上

このニュースリリースは、投資や勧誘を推奨することを目的としたものではありません。